

2020年度 株式会社ケーブルネット下関 放送番組審議会 議事録

【開催日時】 2020年11月17日(火) 午前10時00分～11時15分

【場 所】 シーモールパレス 3F エメラルドの間

【出席者】

放送番組審議会委員：7名中 5名出席 ※敬称略・順不同

〈会 長〉

中川 章 (下関商工会議所 事務局長)

〈副会長〉

砂原 雅夫 (下関市立大学 副学長)

〈委 員〉

広瀬 誠 (株式会社みなと山口合同新聞社 営業局長)

竹内 徹 (下関市 総合政策部長)

渡邊 康弘 (株式会社山口銀行 取締役執行役員 本店営業部長)

放送番組審議会事務局：8名出席

岩尾 克也 (株式会社ケーブルネット下関 代表取締役社長)

藤野 悦郎 (株式会社ケーブルネット下関 常務取締役)

立石 靖治 (株式会社ケーブルネット下関 地域プロデューサー)

軍神 尚美 (株式会社ケーブルネット下関 地域プロデューサー)

仲川 圭 (株式会社ジェイコム九州 地域コミュニケーション統括部 部長)

本田 憲生 (株式会社ジェイコム九州 地域コミュニケーション統括部 北九州事務所長)

有馬 教之 (株式会社ジェイコム九州 地域コミュニケーション統括部 制作グループ)

大澤 隆介 (株式会社ジェイコム九州 地域コミュニケーション統括部 制作グループ)

【議事内容】

1. 開 会

1) 会長挨拶

中川会長

2) 新委員挨拶

竹内 徹 (下関市 総合政策部長)

渡邊 康弘 (株式会社山口銀行 取締役執行役員 本店営業部長)

3) 株式会社ケーブルネット下関代表挨拶 (岩尾 代表取締役社長)

株式会社ケーブルネット下関は、今年で開局 22 年となる。

現在、J:COM チャンネル下関の視聴可能世帯は、6 万 8 千世帯にもものぼる。

これもひとえに地域の皆さまの支えがあつての事と感謝を申し上げたい。

今年は、新型コロナの影響で思うような番組編成が出来なかったが少しでも地域の皆さまに有益な情報をお届けするよう努めてきた。

本日は、忌憚のないご意見・ご指摘を受けたまわり、地域の皆さまの新しい生活・ニューノーマルな生活情報に役立つ番組制作・編成に取り組んでいきたいと考える。

2. 番組編成方針説明 (仲川 地域コミュニケーション統括部 部長)

コミュニティチャンネルの最大の目標は、「地域にとって必要不可欠な存在」であること。

J:COM では、全国約 70 局で J:COM チャンネルと J:COM テレビの 2 つのコミュニティチャンネルを運営している。J:COM チャンネルのコンセプトは、地域密着の“ど・ろ・一かる”。

地域ナンバーワンのメディアを目指し、地域の皆さまに役立つ生活情報を深掘して取材し放送している。

一方、J:COM テレビは、“地域から全国へ”がコンセプト。

地域の祭りやイベントなどを特別番組にして全国同一編成で放送している。

3. 2020 年度 放送番組内容説明(事務局)

下関局におけるレギュラー番組は、14 本を制作。

カテゴリーは、地域のニュース番組や地域の探訪番組など。

このうち「ジモト応援！下関つながる NEWS」は、コロナ禍で通常の取材がままならない中、どうすれば地域の皆さまに有益な生活情報をお伝えできるかを考慮して、本年 6 月に立ち上げた番組である。

新型コロナ・安全安心・買い物グルメ・こども教育・健康サポート・おでかけ・企業しごと・まちづくりの8つのカテゴリで情報を掲出した。後程、審議いただきたい。

一方、特別番組は、現在までに「山口県新型コロナウイルス関連情報」、「下関家ごはん」、「StayHome 下関」、「山口県メモリアルカップ夏季高等学校野球大会」、「第13回 J:COM 杯ミニバスケットボール大会」、「台風10号関連情報」の6本を制作した。

4. 番組審議「ジモト応援！下関つながる NEWS」（ダイジェストで上映）

《質疑応答》

委員：この画面割については、新型コロナウイルスの情報に向けて作成したのか。今後も継続していくのか。

事務局：8つのカテゴリを明確にするための全局統一のキービジュアルである。見づらいとの声も聞くのでVTRに入った場合などは、全画面にするなどの工夫を行っている。今後さらに検討していく。

委員：ZOOM画面ばかりだと変化がない。また文字数が多いと読めない。スポーツなどの軽いネタであれば、テロップを遊ばせてみてはどうか。また視聴者に誤解を与えかねないテロップ表記があった。

事務局：善処する。

委員：コロナ禍の中、J:COMが新しい形でのニュースの在り方を模索している意図は、伝わる。テレビでのZOOM画面も一般的になってきたと思う。しかしZOOM画面は、生の臨場感に及ばないとも思う。番組自体は、コンパクトに有益な情報がテンポよく展開できていると思う。

事務局：感染症予防対策を講じながら取材を入れていく予定。

委員：以前ZOOMで番組に出演したが掛け合いの難しさを感じた。対面ではないので、入念な打ち合わせが必要ではないか。

事務局：善処する。

委員：コロナ禍の中、地元の情報、特に学校関係の情報が配信されると安心する。画面構成に関しては固い印象を受けたので、もう少し柔らかくなるといい。

委員：8つのカテゴリとキャスターの2ショットは比率的に見づらい。ごちゃごちゃした印象を受け、テロップの文字に目が行かない。

事務局：制作の工夫次第で見やすいものになると思うので、ご意見を真摯に受け止めて改善していきたい。

「ジモト応援！下関つながる NEWS」は、コロナの影響で現地取材・打ち合わせの自粛を余儀なくされた中で立ち上げた基幹番組。
地域の皆さまに寄り添った番組作りを今後も行っていきたいと考える。

《その他番組についての意見》

委員：「台風 10 号関連情報」は、民放に比べ役に立った。

県内の交通情報しか発信しない民放に比べ、J:COM では、下関はもちろん、隣接する北九州の交通情報もカバーしている。これは J:COM の大きな功績だと思う。

災害時の生活情報は、地域のケーブルテレビの大きな使命だと思うので頑張ってもらいたい。

事務局：河川のライブカメラなどがあれば、よりリアルタイムな情報をお届けできると思う。今後も行政・民間の方々との連携を密にしてまた SNS も併用して地域の皆さまにとって役に立つ安心・安全情報を提供できればと考える。

委員：「山口県メモリアルカップ夏季高等学校野球大会」は、子どもたちと一緒に感動できた。コロナ禍の中、大いに意義があったと思う。

また「StayHome 下関」のように身近な施設を掘り下げる番組も行ってみようと思わせるので意義があると思う。

事務局：新型コロナウイルスは、目まぐるしくフェーズが変わっている。

その都度フレキシブルに対応し、今後も地域の皆さまに有益な生活情報を発信していければと考える。

5. 2021 年度番組方針について

事務局：通常であれば、来年度の番組編成の方針を策定する時期であるが新型コロナウイルスの影響で先行きが不透明な状況。

ただ地域の皆さまに有益な生活情報を発信していくことに変わりはない。
新しい生活様式に合わせた番組編成を継続して行っていければと考える。

6. 審議委員からの意見を受け（岩尾 株式会社ケーブルネット下関代表取締役社長）
建設的な意見の数々に感謝する。お褒めの言葉をいただいた「台風 10 号関連情報」
に関しては、放送後下関市にヒアリングに伺った。

その際、市民からの問合せで一番多かったものが「特別災害地域」についてとのこと。やはり市民は、狭域的な情報を求めており、これらの情報を細目に発信することがコミュニティチャンネルの役割であると感じた。

またコロナ禍での新しい運動会の形として感染予防を徹底した中学校の運動会取材した。その際、校長先生が保護者全員に「J:COM が取材に来る」という情報をSNS に流していただき、相当数の保護者からの問合せがあった。

運動会の取材は、取材許可などのハードルが高いが大勢の方に喜ばれると思う。今後もコミュニティチャンネルでは、地域の皆さまに必要とされる番組作りに勤しんでいきたいと考える。

7. 閉 会

以上

